



セキュリティ・キャンプ2024

次代を担う情報セキュリティの
トップレベル人材を発掘・育成

情報セキュリティを学ぶ5日間

SECURITY CAMP

開催レポート

全国大会 | ネクスト | ジュニア

What's Security Camp?

セキュリティ・キャンプとは？

情報セキュリティ分野のエキスパート、リーダーとして、

人々のために働く人材を育成する場です。

あらゆる産業分野で情報セキュリティに関する脅威が複雑化・高度化し、

対策の重要性が年々高まっています。

次代を担う情報セキュリティ人材の候補として発掘・育成された

「セキュリティ・キャンプ修了生」は社会の様々な場面で活躍しています。

セキュリティ・キャンプ

「セキュリティ・キャンプ2024」について講師主査からのメッセージ



木藤 圭亮
講師主査

セキュリティ・キャンプでは、セキュリティ業界の第一線で活躍する講師をお招きし、最先端のサイバーセキュリティに関する講義が 5 泊 6 日の合宿形式で実施されます。多くの講義はハンズオンやハッカソンで実施され、チューターの補助も受けながら自ら手を動かすことで理解を深めることができるため、授業や自己学習では学べない内容になっています。

学べるセキュリティ技術は有用である反面、サイバー犯罪にも使われる可能性があります。キャンプでは学んだ技術が悪用されないように、倫理・法律の講義を毎年実施しており、受講生全員が必ず受講します。

キャンプは「セキュリティ」という同じ興味を持つ同世代の仲間を作れることも魅力の一つです。キャンプ修了後も、修了生同士でコミュニケーションをとっています。中には修了生同士でものづくりを行い、海外のセキュリティ関連の有名カンファレンスで発表した事例もあります。

最後にセキュリティに興味がありそうな方がいらっしゃいましたら、ぜひキャンプを紹介いただき、参加を勧めていただければと思います。まだセキュリティに詳しくなくても、高度な技術を学べると同時に、同じ興味を持つ同世代の仲間が作れる機会ですので、ぜひともご紹介下さい。

開催概要

5 泊 6 日の合宿形式で行う、セキュリティ・キャンプ事業の中心的な行事です。情報セキュリティに関する高度な技術教育と倫理教育を、25 歳以下の生徒・学生に対して実施します。毎年、全国各地から数百名の応募があり、受講者は、受講料・交通費・宿泊費・食費が無料です。

期 間	2024 年 8 月 12 日（月）～ 17 日（土）
会 場	クロス・ウェーブ府中（東京都府中市）
主 催	独立行政法人情報処理推進機構（IPA） 一般社団法人セキュリティ・キャンプ協議会
共 催	経済産業省
後 援	サイバーセキュリティ戦略本部、文部科学省、デジタル庁
参加者数	全国大会 80 名、ネクスト 10 名、ジュニア 6 名が参加

※2024年度実績

受講料

交通費

宿泊費

食 費

すべて
無料

15日間の流れ (2024年度実績)

共通講義

共通講義K1 (DAY1 14:00～)

『ゲームセキュリティの歴史』

身近な娯楽であるビデオゲームにおいても様々な技術的不正行為と犯罪、対策がある。その不正の歴史と現状を振り返り、どのような不正行為が行われ、どのような対策が打たれてきたのか、法律がどう変化していったかなどについて解説。

共通講義K2 (DAY1 15:00～)

『法律と倫理』

サイバーセキュリティの研究や開発を実施する場合、法に関する知識は必須であり、常に意識が必要。サイバーセキュリティに関係する刑事系法律の基礎的な内容として定められていることを説明し、法律面、倫理面及び道德面の問題に触れながら、ディスカッションする。

共通講義K3 (DAY2 19:00～)

『人の脆弱性とセキュリティ対策』

セキュリティにおける「人の課題」について、心理学の側面から解説。ソーシャルエンジニアリング攻撃やソーシャルメディアで拡散する不確かな情報が人に与える影響などを例に、人の心理・行動特性を知り「人の脆弱性」を考慮したシステム開発やセキュリティ対策を考える。

特別講義T1 (DAY3 19:00～)

『日本発のサイバー技術の造り方』

日本が世界に通用する高品質なサイバー技術を生み出すためには、実験的で自由な試行錯誤を許容する環境で「超正統派」のICT技術者を育成する必要がある。自由なネットワーク環境の構築や、教育機関・行政との連携による実践的な技術開発の推進事例を紹介しながら、日本型の大企業や政府系組織等にある人材・資源・設備・規模を活用する具体策を解説。

DAY 1 8月12日(月)

12:00 受付

13:00 開講式



14:00 共通講義K1

15:00 共通講義K2

16:30 グループワークG1



17:30 夕食



18:30 交流会



19:30 LT発表



20:30 ホームルーム1日目

21:00

DAY2 8月13日(火)

6:30 朝食

8:30 専門・開発 N1 J1



12:30 昼食



13:30 専門・開発 N2 J2



17:30 夕食

19:00 共通講義K3



20:00 グループワークG2



20:30 ホームルーム2日目

21:00

DAY3 8月14日(水)

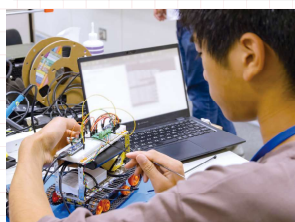
6:30 朝食

8:30 専門・開発 N3 J3

12:30 昼食



13:30 専門・開発 N4 J4



17:30 夕食

19:00 特別講義T1



20:00 グループワークG3



20:30 ホームルーム3日目

21:00

DAY4 8月15日(木)

6:30 朝食

8:30 専門・開発 N5 J5



12:30 昼食



13:30 専門・開発 N6 J6



17:30 夕食

19:00 LT発表会



20:00 グループワークG4



20:30 ホームルーム4日目

21:00

DAY5 8月16日(金)

6:30 朝食

8:30 グループワーク発表



9:45 成果発表(専門コース/
開発コース)



12:30 昼食

13:30 成果発表(ネクスト/
ジュニア)



14:15 閉講式



15:00 交流イベントを開催

DAY6 8月17日(土) 解散・帰宅

セキュリティ・キャンプ2024 全国大会

講義概要

共通講義

サイバーセキュリティと他の分野・領域がクロスオーバーする部分を扱う講義で、「ネクスト」「ジュニア」を含めた受講者全員に対して行われます。受講者のコミュニケーション向上のための「グループワーク」も用意されています。

専門コース

少人数で実施する演習を交えた講義です。クラスごとに一貫したテーマに取り組むことで、基礎から高度な内容までを無理なく学習できるカリキュラムを用意します。
ひとつの分野を深く掘り下げる体験を通じて探究心を養うとともに、分野共通の技術の極め方を習得することで、変化の激しい時代を楽しみつつ、新たな領域を開拓していく力を身につけてもらいます。

開発コース

開発コースは受講者 2~3 人のゼミにわかれて、合格通知後の事前学習期間からキャンプ開催期間の終わりまでコミュニケーションを取りながら進める、ゼミ形式の学習形態です。ゼミの講師は専門分野の家庭教師だと考えてください。

このゼミ形式では、専門分野の第一線で活躍している講師が、受講生の理解度に合わせつつ「更なる理解の手助けと新しい知識・経験を得る手がかり」を用意してくれます。技術の研鑽はもちろんのこと、「何を楽しんでいるのか」「どうやって楽しんでいるか」「どうして継続できているのか」といった、一流のプロフェッショナルの姿勢を学べます。

具体的な講義内容は、以下のホームページをご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/security-camp/2024/camp/zenkoku/program/index.html>



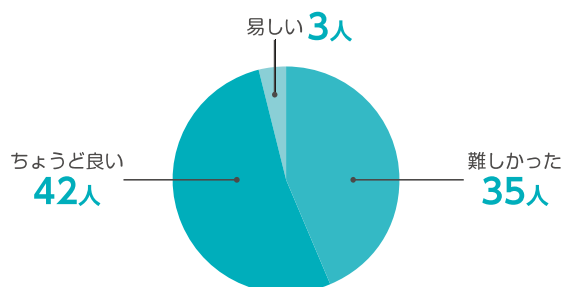
セキュリティ・キャンプに参加して、自分の中で変わったと思うことは？

- ☒ 人の脆弱性とセキュリティ対策の講義で、人の善意が脆弱性になるという話に感銘を受けた。正直これまではあまりセキュリティ対策について注意をしてこなかったが、様々な事例を聞く中でもっと気をつけなければいけないと思った。
- ☒ 何かをやりたい→でも自分は知識がないからどうせできない、のような思考回路だったがキャンプを通して、失敗してもいいからとりあえずやってみよう、と思える勇気を身につけることができた。
- ☒ 知らない人でも、会話をすることで対面での関係を構築しやすくなったこと。いろいろな人の技術力を実感することができそれに追いつきたいという向上心が芽生えたこと。

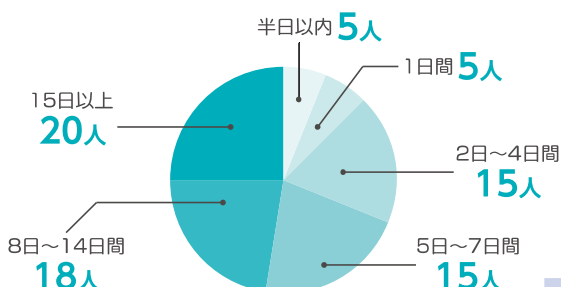
受講生の声 (全国大会修了生のアンケート結果より)

応募時

Q 応募課題の難易度は、いかがでしたか？

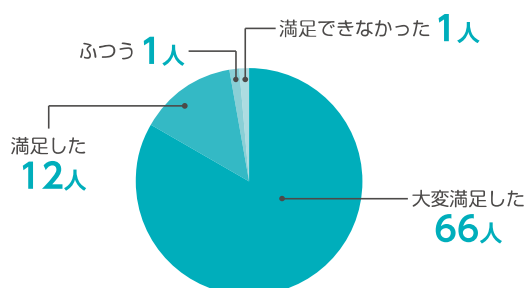


Q 応募課題の回答に要した時間(期間)を教えてください

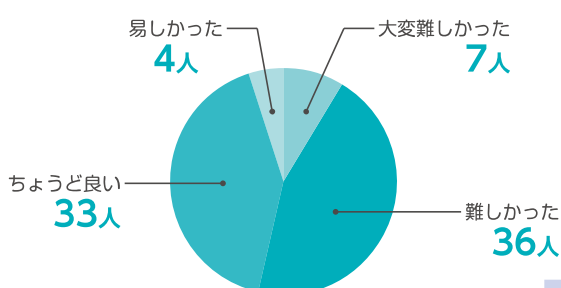


参加

Q 全体的な満足度はいかがでしたか？

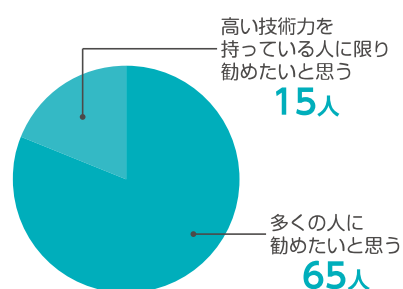


Q 全体的な難易度はいかがでしたか？

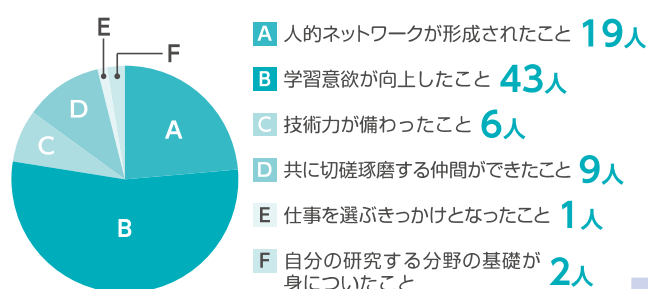


参加後

Q 友人・知人にキャンプを勧めたいと思いますか？



Q 振り返って、キャンプの一番良かった点を教えてください



セキュリティ・キャンプに参加した経験を今後どのように活かしたいですか？

- ☒ 後輩たちにキャンプの良さを伝えていきたい。
- ☒ 修了生イベントでの発表や、サポート・チューター募集などの制度を利用した知識のアウトプットを行いたい。
- ☒ 大学で「情報処理研究部」という部活の部長を務めており、セキュリティ・キャンプ全国大会で学んだことを部員に教え、部員を巻き込んでセキュリティについて学んでいきたい。
- ☒ 短期的にはキャンプを通じて得たものを整理し、自分の中で咀嚼したい。中期的には Wi-Fi ルータの解析・脆弱性の発見と報告に生かしたい。



受講生へのインタビュー



情報セキュリティに関する活動状況

黒田：大学のプロジェクト活動で、学部生にセキュリティに触れてもらいたいなと思い、初学者向けではありますが教材を作っています。ただ、セキュリティ・キャンプを知ったのが去年の秋で、プログラミングを始めたのも去年です。どちらかと言えば自分自身では初心者かなと思っています。

情報セキュリティに興味をもったきっかけ

島田：私は幼少期からパソコンに触れていたわけではなく、私たちの生活に不可欠な情報システムを安全に活用する方法や悪用している人達からどうやって人々を守るのか、という事が気になりセキュリティに興味を持つようになりました。

特に祖父が1度クレジットカードの悪用被害に遭ってしまったことで、脅威を一層身近に感じ、セキュリティを学ぶ意欲が高まりました。テレビで詐欺やランサムウェア攻撃のニュースを見ていると自分と直接関係ない世界だと思いがちですが、割と誰でも被害に遭う危険があるので、脅威から人々を守り社会や世界を安全に保ちたいという気持ちがあります。

応募の動機

黒田：“AI”というワードを聞かない日はないくらいホットな分野なので参加してみたいなと思いました。大学の

講義で ChatGPT を使用するにあたって、その機能を理解していないと、利用者にとっては脆弱というかセキュリティ面で不安な部分もあるのではないかと思います。詳細を知るという観点で AI セキュリティの講義に応募しました。また、様々な分野のプロフェッショナルと会うことにも興味がありました。

応募課題の難易度は?どう取り組んだ?

黒田：時間的には2週間半を使いました。最初の1週間半で全体的に書き、残りの1週間で推敲しました。難易度としては問題によってばらつきがあったと思います。抽象的な問題も多く、自分の考えがしっかりと、回答するのがなかなか難しい問題もあり、自分の芯を通すところにすごく時間を割きました。

くろだ にこ
黒田 仁胡さん

公立千歳
科学技術大学
3年



島田：大学の先輩から「セキュリティの知識を身に付けたいなら、セキュリティ・キャンプがあるよ」と紹介いただき応募しましたが、応募課題は正直非常に難しかったです。軽い興味から取り組んでみたものの、普段全く知らない分野の質問もあり、パッションだけでは絶対に解決できない課題もありましたが、調べたり、解析を行ってみたり、コードを書いてみたり色々なアプローチを試してなんとか回答を作成しました。

研究室の先輩など、多くの人に助けをもらいながら進めた部分もあります。仲間などの力なしでは成し遂げられない側面も多々ありましたが、最終的には自分の意思と学習意欲が大切だと思います。

参加後の感想

黒田：初めから知識量では勝てないと思っていましたが、やはり技術力と知識の豊富さに圧倒されました。AI セキュリティクラスでは、AI だけではなく法律や低レイヤなど横断的に学ぶことができました。受講生のみなさんは技術を社会にどう役立てるかを真剣に考えていて、社会への貢献をしっかりと意識している点が素晴らしいと感じました。また、セキュリティ・キャンプでは、講師やチューター、運営の方々から最先端の情報を得られるので、貴重で有難い機会だと思いました。

島田：ここに集まる人達は、セキュリティはもちろん、低レイヤなど、あらゆる技術の最先端を意欲的に学びたいと思っている人が多いと思うので、そのような仲間と知り合えた事が凄く嬉しかったです。今まで関わったことのない人たちからさまざまな刺激を受け、これからも切磋琢磨して頑張ろうと思えました。私は大学の研究室経由でセキュリティ・キャンプを知る機会を得たのですが、そもそもこのイベントを知らない人も多いと思うので、修了生として情報を積極的に発信して、いろいろな人に受けてもらいたいと考えています。

キャンプでの経験を今後どう活かす？

黒田：将来、私は AI とは関わらない職種になるかもしれませんが、日常生活には脅威があるため、身近な人達に脆弱性について教えていきたいと考えています。大学のセキュリティ教材作成プロジェクトに組み込むのは現段階では難しいと思いますが、開発していくことが出来れば個人的には面白い取り組みだと思っています。

島田：大学ではルーティングセキュリティに関する研究に取り組んでいますが、開発講義 Detection Engineering を学んだことで研究分野以外の技術にも興味を持つようになりました。セキュリティ・キャンプを通じて視野が大

きく広がったので、今後は幅広い技術分野をカバーし、あらゆる脅威に対応できるスキルを磨いていきたいと考えています。最終的には、セキュリティの最前線で活躍し、多様な課題に柔軟に対応できる人材を目指したいと思っています。

応募を検討しているみなさんへのメッセージ

黒田：私も何百回も挫けましたが、いろいろと調べることと基礎レベルを上げ、その上で AI を取り巻く社会問題についてどのように考えているのか、という自分の考えの軸を持つことで課題が解きやすくなると思います。ただ、他のクラスの応募課題には、基礎知識だけではなく発展的なものもあったので難しくて挫けてしまいましたが、興味が持てそうなものがあれば、是非チャレンジすべきだと思います。

島田：セキュリティ・キャンプは勿論倍率がとても高く、「レベルが高くて自分には到底無理だ…」と思うかもしれませんが、私も実際応募課題を出しても通らないだろうと思っていましたが、奇跡的に通ったので結局は技術的な知識が高なくても意欲が一番大事なのかなと思います。とにかく応募課題を出すことが一番重要で、たとえ残念な結果になったとしても自分の中で何かしらの学びはあると思いますので、まずは応募課題と睨めっこするところから始めてみてください！ キャンプに参加することで、想像以上に素晴らしい人々と出会い、人生で一番の思い出となる経験が出来ると思うのでぜひ積極的に参加して欲しいです。

しまだ れな
島田 怜奈さん
慶應義塾大学
1年



セキュリティ・キャンプ2024 ネクスト



開催概要

※開催期間および会場は全国大会と同じです。

ネクストは、全国大会修了生の次のステップとして、さらに高度な教育を行うための特別プログラムです。参加可能な年齢は13歳以上25歳以下の生徒・学生で、受講料や教材費などの負担なく参加することが出来る点は、全国大会と同様です。用意された講義は多分野に渡り、さらに高度なものになっています。

既存の価値観にとらわれないことで新たな脅威に先取りして備え、セキュリティの多様なシーンに対応し、新たな価値を生み出していけるトップオブトップの人材を発掘・育成します。

講義概要

共通講義、LT発表会に加え、超ハイレベルな5つの講義を3日半かけて実施しました。講義名と概要を紹介します。

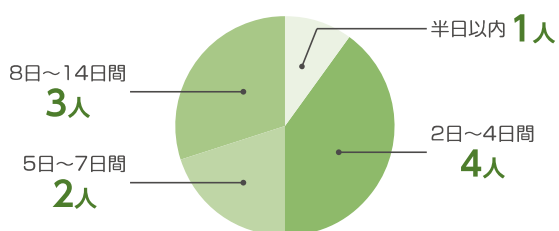
	講義名	概要
N1⑤	ハードウェア再現実装で学ぶアーキテクチャ解析	コンピュータシステムをFPGA基板で再現します。
N②	C++ ライブラリ開発	可読性とユーザーフレンドリーな設計を兼ね備えた高性能ライブラリを開発する方法について学びます。
N③	DNS の運用における潜在的リスクと対処について	DNS を一般向けに運用してきて得た知見をもとに、次のDNSについて考察します。
N④	Content Delivery Network を自作してみよう	CDN の要素技術である多層ロードバランサを実際に作っていきます。
N⑥	TCP/IP プロトコルスタック自作入門	「TCP/IP」のプロトコルスタックをスクラッチで実装し、実際のOSに搭載してネットワーク機能を持たせる演習です。



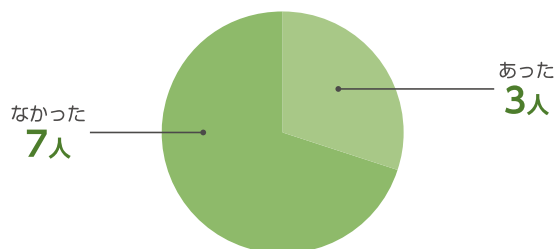
受講生の声



応募課題の回答に要した時間(期間)を教えてください。



選考通過後～参加前までに不安はありましたか？



受講生へのインタビュー

情報セキュリティに興味をもったきっかけ

山本: 僕は、情報技術に触れたのが大学に入ってからなので、おそらく参加されているみなさんと比べると、割と遅い方かなとは思います。色んな技術に触れていく中で、その技術の成り立ち・根幹となる部分を知りたいという、好奇心が凄く芽生えてきて、ネットワークや、レイヤの低い部分、コンピュータの核となる部分を自分で調べたり作ったりしていました。こういった基盤の技術が情報セキュリティの分野でも活かせることに気づき、興味を持ちました。

応募の動機

山本: 全国大会については少し前から知っていました。受講生のレベルが高いと認知しており「参加したいな」とは思っていました。僕が知った時には全国大会の受講生としては参加できない年齢で、無理だと思っていたのですが、ネクストがあるということを最近知り、年齢的にもぎりぎりクリアしていたこと、また、自分が好きなネットワークの分野等が多く、その講義と自分の興味がマッチしていたこともあり、今回初めて応募し、参加させていただく流れになりました。

応募課題の難易度は?どう取り組んだ?

山本: 自分が今まで熱心に取り組んできた技術を更に深く掘り下げ、「自分はこういうことをしてきた」という熱意をそのままぶつけるというイメージで取り組みました。自分が好きなことや、今までやってきて楽しかったことをありのままに書くことを意識したので、楽しんで書けました。講義について調べる課題もあるのですが、自分の好奇心に従い、どんな内容が学べるかを想像しながら調べることで楽しく取り組みました。「楽しんで」が大切なポイントだと思っています。

参加後の感想

山本: 応募課題の提出から講義の準備に至るまで感じていたワクワク感が実際に講義を受けている今まで続いていて、本

当にずっと楽しいです。キャンプのような、学生が集まるイベントへの参加は初めてですが、一緒にものを作ったり、学んだりする仲間がいてモチベーションになっていますし、刺激にもなっています。ネクストはまだまだいろいろな講義があり、凄く面白い。自分が受けたいなと思っていた講義もあるので、最後まで頑張りたいと思います。

キャンプでの経験を今後どう活かす?

山本: ネクストの授業では、さまざまな分野の情報技術学ぶ機会が多く、まさにネクストのテーマでもある「フルスタックの人材になる」といったところは、凄く心がけています。ここで学んだことを、製品や情報セキュリティの分野などに還元できるようにしたいと考えています。

応募を検討しているみなさんへのメッセージ

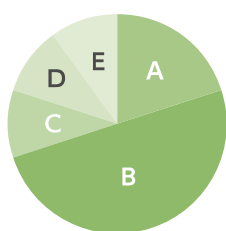
山本: 例年の受講生のレベルの高さから「参加できるかな」と不安に思う気持ちは僕にもありました。難しそうだと思う気持ちから、応募するのが年齢制限ぎりぎりのタイミングになってしまいました。でも、自分が好きなことや、楽しんでいくことに熱意を持って応募してみることが大事だと思います。僕も最初は全然受かると思っていなかったのですが、熱意が認められたのかな、と感じています。迷ったら応募することが本当に大事だと思います。

やまもと たかゆき
山本 貴之さん
大阪大学
大学院
2年



受講生の声

Q 振り返って、キャンプの一番良かった点を教えてください

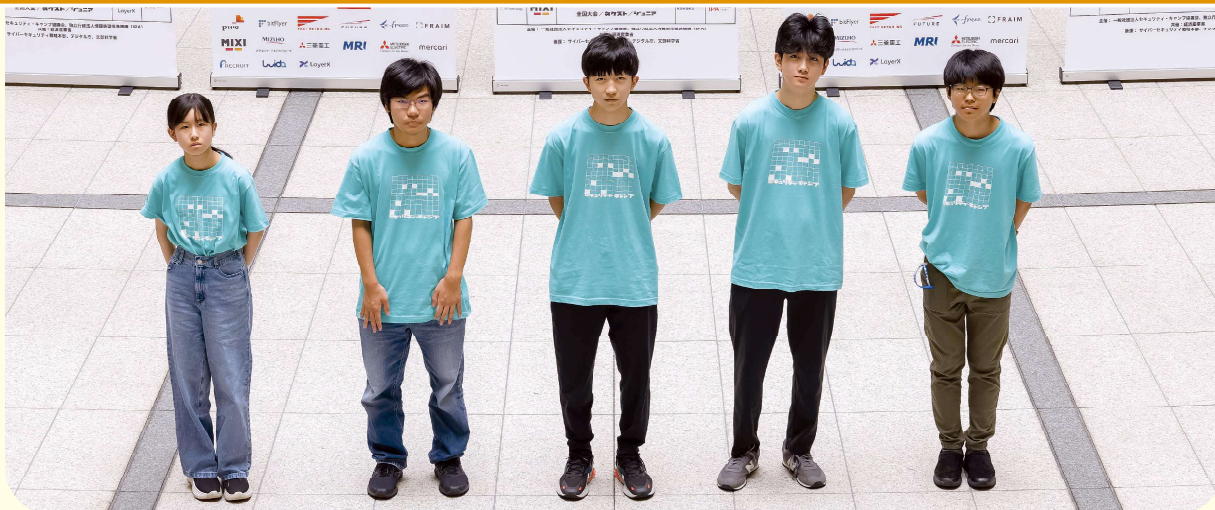


- A** 人的ネットワークが形成されたこと **2人**
- B** 学習意欲が向上したこと **5人**
- C** 技術力が備わったこと **1人**
- D** 共に切磋琢磨する仲間ができたこと **1人**
- E** 自分の研究する分野の基礎が身についたこと **1人**

どんな点に不安を感じていましたか?

- ネクストでは非常にハイレベルな講義が繰り広げられると聞いていたので、果たして自分がついていけるのか自信がなかったというのが正直なところです。とはいえ、蓋を開けてみると、講師・チューターの皆さんが非常に丁寧にサポートしてくださり、私の不安は杞憂に終わりました。
- 難易度。普段触れないレイヤの講義もあったので内容についていけるかが不安でした。

セキュリティ・キャンプ2024 ジュニア



※1名は体調不良により写真撮影不参加

開催概要

※開催期間および会場は全国大会と同じです。

2022年まで全国大会内で開催していたジュニア開発ゼミを、15歳以下を対象とした『セキュリティ・キャンプ ジュニア』として2023年度より新たに開催しました。2024年度は25名が応募し、6名が選抜されました。

講義概要

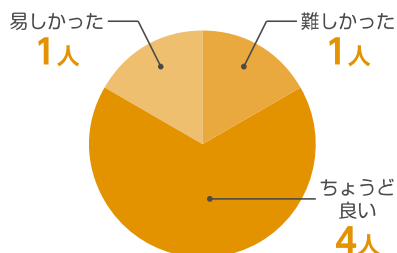
ジュニアは、小中学生を対象として実施し、ネットワークに関する講義に加え、セキュリティや、開発を効率的に行うための基礎知識についても講義を行います。講義の後は、受講者自身が手を動かす時間を多く取るため、自身が考えたアイデアを形にする過程にじっくり取り組むことができます。

	講義名	概要
J①	Web 技術入門	OSI 参照モデルや、HTTP/HTTPS をはじめとした各種プロトコルについての解説に加え、Web の世界における文献の調べ方などについて説明します。
J②④⑥	開発	講師・チューターがサポートしながら、各個人のテーマに沿った開発作業を行います。
J③	Git 実践基礎	ソフトウェア開発におけるバージョン管理の重要性、Git の機能説明、開発を行う際に役立つ知識を学びます。
J⑤	ログ分析をしてみよう	この講義では情報セキュリティにおけるログ活用の基本、ログの種類や分析方法、分析を行う理由について座学と演習を通して学びます。

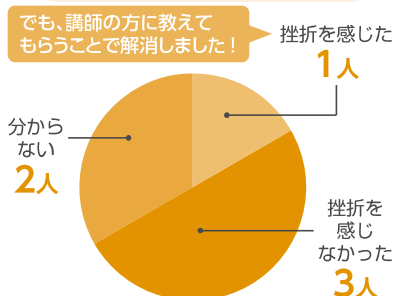


受講生の声

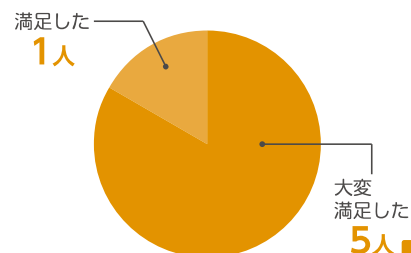
Q 全体的な難易度はいかがでしたか？



Q 講義中、挫折を感じることはありましたか？



Q 全体的な満足度はいかがでしたか？





受講生へのインタビュー

情報セキュリティに興味をもったきっかけ

高田：ここ数年、ロシアによるウクライナ侵略が続いていて、サイバー戦のニュースも聞こえてくるようになりました。そんな時、日ごろから日本のセキュリティ人材不足を懸念していた母親から、サイバーセキュリティに詳しい人を紹介され、学び始めたのがきっかけです。はじめは、自分自身としては興味が薄かったですが、インターネットの仕組みがきれいに整備されていて、みんなが共通のルールに従って利用していることが美しいと思って。わからなかったことを解明していくうちに、パズルのピースがはまっていくみたいにとんども、楽しくなり、興味も強くなってきて今に至ります。

応募の動機・応募課題の取り組み方

高田：鈴鹿サーキットの旅行中に、偶然 SNS でミニキャンプが三重で開催される、という情報が流れてきて、そこで、まずミニキャンプのことを知りました。ミニキャンプに参加した時、「全国大会」や「ジュニア」の存在を知り、今回応募することになりました。本来、合宿などはちょっと苦手だったのですが、ミニキャンプに参加して、講師陣の充実度が高いことがわかりました。講義の資料にジョークを入れたり、面白さも取り入れられていて、キャンプへの抵抗感が薄れていったと思います。

応募課題は基礎的な内容でした。難しいというより、どちらかと言えば知識量を確認するような内容で、予習も兼ねたものかなという印象です。課題にはあまり時間を掛けずに取り組みました。

参加後の感想

高田：僕は趣味程度でチャットアプリを作ったりしていたのですが、コードの書き方等はあまり意識をしていなくて。今見返すと、改行していなかったり、ネストがすごい量になったりと、汚いものでしたが、今回のキャンプで基礎的な開発の流

れを学ぶことができました。例えば、その日にどこまでの機能を実装するのかの目標が設けられていたり、キャンプ期間内で完成できるように自分でスケジュール調整したり。これによって作業への時間のかけ方や、書き方の意識が変わりました。

キャンプでの経験を今後どのように活かそうと思っているか

高田：やりたい仕事はまだわからないし、そもそも行きたい大学とかも決まっていなくて。ただ、せっかくなら自分の好きなことや強みを伸ばしたいと思っています。今回のジュニア参加の流れで、来年は全国大会にチャレンジするかもしれません。来年も参加出来たら、セキュリティ関連の仕事を目指す可能性も出てくるかも。

応募を検討しているみなさんへのメッセージ

高田：自分の好きなものを作りたいと思っている人は、チャレンジした方が良いと思います。講師陣は様々な得意分野を持っていて、知識量もすごい。しかもその人達からサポートを受けられるのは大きな利点だと思います。

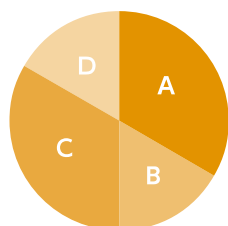


ただ くに ひと
高田 久仁一さん
横浜インター
ナショナル
スクール
中学校 3 年生



受講生の声

Q 振り返って、キャンプの一番良かった点を教えてください



A 人的ネットワークが形成されたこと **2人**

B 学習意欲が向上したこと **1人**

C 技術力が備わったこと **2人**

D 共に切磋琢磨する仲間ができたこと **1人**

キャンプに参加した経験を今後どのように活かしたいですか？

- セキュリティ意識を部活内で広げる事をしたいと思います。また、プログラミングの知識も流布しようと思っています。
- いろいろな人にこんなイベントがあるということを共有したり、何かしらの形でセキュリティ・キャンプに貢献したい。



まつうら みきひと
松浦 幹人さん

■所属：非公開

プロフィール

セキュリティ・キャンプ全国大会参加(2019)、同 チューター(2021)。セキュリティ・キャンプネクスト 参加(2022)、同 チューター(2023)。セキュリティ・ミニキャンプ in 徳島 講師(2023)。Global Cybersecurity Camp 2024 Thailand チューター。Chromium 開発に従事している(2023-)。



受講者として参加した当時から現在までの活動内容や経歴

松浦：2019 年に全国大会を修了した後、コロナ禍でオンライン開催となった 2021 年の全国大会ではチューターを担当しました。翌 2022 年、ネクストへ受講生として参加、2023 年はネクストのチューターを務め、その後、ミニキャンプの「チャレンジ講師」に挑戦しました。それをきっかけに徳島のミニキャンプで簡単な講義を行うなど、順調にセキュリティ・キャンプのステップを踏み、今年は全国大会の講師として参加しています。

今回、講師として参加して感じた事

松浦：今回は初めての会国大会の講師として参加しましたが、講師というよりいち参加者として楽しませていただきました。自分以外の講師のかたが担当するクラスを見学したのですが、「何を教えるか」「技術をどう教えるか」という視点について学ぶ良い機会にもなりました。今後、自分の講義にも活かしていけると感じています。

次回の応募を検討している人へのメッセージ

松浦：受講生のみなさんには「これを学びたい」「これを作りたい」といった意欲を持ってきて欲しいです。私たち講師側は、受講生のみなさんが求めるものに応えたいと思っています。特に開発コースでは、受講生が自分のやりたいことを提案し、それに対して講師が「できそうだね」と対応する場面が多くあります。だからこそ、貪欲に学び、成長しようというパッションを持ったかたに来て欲しいし、そのような人にはセキュリティ・キャンプがぴったりだと思います。

セキュリティ・キャンプへの思い

松浦：セキュリティ・キャンプに初めて参加したのが 5 年前とは思えないほど、最初に参加した時のことを覚えています。技術好きが集まるこの空間、5 日という限られた短い時間ですが、濃密な時間がもの凄く好きで、気が付いたら講師にもなっていました。今後は、今までもらってきた立場でしたので、それを還元できるような活動をしていきたいと思っています。



つる ゆうや
都留 悠哉さん

■所属：トヨタ自動車株式会社

プロフィール

2022年トヨタ自動車株式会社に入社
SecHack365学習駆動コース坂井ゼミ参加(2019)、
セキュリティ・キャンプ全国大会参加(2020)、チューター
(2021)、Global Cybersecurity Camp チューター
(2021)、セキュリティ・キャンプ全国大会講師(2022)

受講者として参加した当時から現在までの活動内容や経歴

都留：2020 年オンラインの修了生で、翌年の 2021 年にチューターを務めました。2022 年に一度講師を経験したご縁で 2023 年、2024 年も継続して活動させていただいています。

今回、講師として参加して感じた事

都留：受講生として参加した際はオンラインだったので、受講生同士の繋がりが少なく、必要最低限の会話のみでした。2022 年に講師を担当した時もハイブリッド開催でしたので、家からの講義となり、繋がりの薄さを感じましたが、2023 年と今年は現地開催となり、講義以外の場でも会話が増え、繋がりが強化されたと思います。

受講生について感じるのは、知識や意識のレベルが向上しているという点です。講義中に受ける質問の中には、新鮮な視点からのものがあり、驚きとともに良い経験となっています。受講生から新たなひらめきを得ることもあり、講師をして良かったと思っています。

次回の応募を検討している人へのメッセージ

都留：セキュリティ・キャンプでは、毎年レベルの高い応募課題が用意されますが、全てを解く必要はありません。重要なのは、課題にどれだけ時間をかけて、自分の頭で考え、どう取り組んだかという過程です。受講生はそこを言語化して書けている方が多い印象です。もし、セキュリティ・キャンプに落ちてでも、その課題に取り組んだ努力や時間は、後に貴重なスキルとして残り、人生においても大きな財産となります。諦めずに挑戦し続けて欲しいと思います。

セキュリティ・キャンプへの思い

都留：セキュリティ・キャンプは、25 歳以下の学生を対象にしたセキュリティの勉強会として国内で最も多くの業界関係者が関わるビッグイベントです。国内のセキュリティ人材が不足している現状の中で、このイベントは非常に重要だと考えています。自分もこのキャンプで学んだ経験があり、セキュリティに興味を持つきっかけとなりましたので、今後も是非続けていただきたいと思います。

応募から参加までの流れ

応募開始

4月上旬



募集
(応募課題)
締め切り

5月中旬



選考結果
発表

6月上旬



参加手続き

6月中旬



キャンプ
当日

8月中旬

皆さんと会えることを楽しみにしています!!

セキュリティ・キャンプに関する詳細はこちら



<https://www.ipa.go.jp/jinzai/security-camp/index.html>

お問い合わせ先

IPA セキュリティ・キャンプ事務局 (独立行政法人情報処理推進機構)

〒113-6591 東京都文京区本駒込 2-28-8 文京グリーンコートセンターオフィス

Tel : 03-5978-7553

E-mail : iac-camp@ipa.go.jp

詳しくは Web ページまで <https://www.ipa.go.jp/jinzai/security-camp/2025/camp/index.html>

